

にいがた 勤務医ニュース

発行所
新潟県医師会
新潟市中央区医学町通 2-13
TEL 025 (223) 6381

卒業おめでとう

新潟県医師会 理事 吉田 俊明



卒業おめでとう。平成二十四年末の人口一〇万人当たり医療従事者医師数は全国平均二二・六・五人に比し、新潟県は一八・二・一人で、国内四三番目と医師不足が顕著です。また、新潟県の六十五歳以上の人口構成率(高齢化率)は二八・一%で、全国平均の二五・一%を上回り全国一四番目の高さです。また、新潟県は山間地・豪雪地を抱えています。このような場で医療活動を継続することは多大な労力を要し、その負担は医療者にかかっています。医師不足に対し国は医学部の定員を増やし二〇〇〇年の医学部定員は七六三〇名でしたが、二〇一五年には九一三四名となりました。二〇〇〇年に二五・六万人であった医師数は

これから皆さんが活躍する場である新潟県の医療環境および日本の医療政策について概略を説明したいと思います。

若さ溢れる皆さんへ

県立がんセンター
新潟病院 院長 佐藤 信昭



はじめに

ご卒業おめでとうございます。六年間、勉学に励まれ、無事に卒業を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。皆さんの努力はもろんですが、長年にわたり支えて下さった

は、二〇一二年には三〇・三万人と確実に増えています。このように医師数の問題は改善の方向を見せていますが、地理的な偏在や診療科の偏在が大きな問題として残っています。日本は高齢化社会を迎え医療需要は益々高まり、医療費は一九〇・二〇・六兆円、二〇一〇年三〇・一兆円、二〇一〇年三七・四兆円と急増しており、これは国民総生産や国民所得の伸び率を上回っています。世界に誇れる日本の社会保障制度を守るため、これ以上の費用増を避けなければならない状況になっています。一方、現在の日本は急性期医療を標榜する病院が多く、慢性期医療をおこなう病院が不足し、入院期間が諸外国に比し長くなっています。このように急性期医療を非効率的にさせているものと評価され、医療の適正化・効率化が喫緊の課題とされています。病院は急性期病床を減らし、回復期病床や療養病床を増やす方向に誘導されます。診療所はかかりつけ医として地域住民の健康管理に導かれます。患者は大病院志向を断念し適切な時刻に適切な医療施設を受診するよう望まれます。今後、医療体制、

特に病院の機能分化・連携について大きな変化を迎えます。皆さんが医師として社会に貢献するうえで、常に心に刻んでおいていただきたいことは「我々の使命は何か?」という問いです。「使命」とは会社・病院などの根本的な目標であり、常に意識し、共感し、共通の価値観として持つべきものとされています。判断に迷ったら使命に立ち返り、使命に矛盾しない方策を選択する。意見の対立があれば使命に沿った合意点を模索するとなります。個人の「使命」をひとりひとりが持つこともまた重要です。「自分は誰のために仕事をするのか?」「その顧客は自分の仕事に価値を見出しているか?」常に顧客目線で考えるよう心掛けてください。いつの時代でも医師にとって主な顧客は患者であることに変わりありません。患者の話を聴き、患者の欲することに如何に出来るかを常に考える診療を実践してください。皆さんの今後の活躍をお祈りします。

以前に比べて、労働環境が大きく変わっています。技術革新 IT 化は、病院内でも電子カルテ導入など、情報の共有化に大きく貢献しており、なくてはならないものです。しかし、ともすると、IT 化により処理すべき情報量が非常に多くなり、社会的背景としての個人主義的傾向などもあり、顔を合わせたコミュニケーションがうまく取れないことや、長時間の勤務などからメンタル不調の原因となることも問題としてあげられています。心身ともに健康であることは、昔ほど簡単ではないのかもしれない。

チーム医療の大切さ

チーム医療が大切です。医療が高度・専門化している現在では、良質な医療を安全に、継続的に提供するために、連携して大きな変化を迎えます。皆さんが医師として社会に貢献するうえで、常に心に刻んでおいていただきたいことは「我々の使命は何か?」という問いです。「使命」とは会社・病院などの根本的な目標であり、常に意識し、共感し、共通の価値観として持つべきものとされています。判断に迷ったら使命に立ち返り、使命に矛盾しない方策を選択する。意見の対立があれば使命に沿った合意点を模索するとなります。個人の「使命」をひとりひとりが持つこともまた重要です。「自分は誰のために仕事をするのか?」「その顧客は自分の仕事に価値を見出しているか?」常に顧客目線で考えるよう心掛けてください。いつの時代でも医師にとって主な顧客は患者であることに変わりありません。患者の話を聴き、患者の欲することに如何に出来るかを常に考える診療を実践してください。皆さんの今後の活躍をお祈りします。

卒業生の諸君

新潟大学医学部産科
婦人科学教室 教授 榎本 隆之



卒業生の諸君、おめでとうございます。君達はこれから始める臨床研修に大きな期待をよせておられることと存じます。臨床研修を開始し医師として羽ばたいていけるにあたり、是非留意していただきたいことが三つあります。まず、大学医学部での臨床実習との違いは、これまで大学教員の診療・手術を見学すること、あるいは大学教員の指導の下に患者さんを診察していただくことです。これからは、当然のことながら諸君が直接患者さんを診ることになります。その際には EBM (Evidence Based Medicine) すなわち科学的根拠に基づいた医療を行うことが要求されます。EBM は各種のガイドラインから得ることが出来ますが、時にはガイドラインの基となっていない英文論文を自分で読んでください。また、ガイドラインがない疾患の治療にあたることもあると思いますが、その時はただ先輩医師に治療方針を聞くだけでなく是非最新の英文論文を検索して治療方針を決める習慣をつけてください。これからの日本の医療をリードし

(返事) がないと、紹介医は患者さんのことがとても心配になります。皆さんはこれから臨床医として、六十五歳の定年退職まで、約四十年間患者さんの診療に携わることになります。長い四十年間のうちの数年間を、ぜひ、大学院などでの基礎研究に打ち込むことをお勧めします。また、国内外の留学や学会参加の機会があれば、逃さずにチャレンジして下さい。患者さんの診療にすぐには直接役立たないかもしれませんが、医師としての総合的な能力向上につながります。

基礎研究の経験 皆さんはこれから臨床医として、六十五歳の定年退職まで、約四十年間患者さんの診療に携わることになります。長い四十年間のうちの数年間を、ぜひ、大学院などでの基礎研究に打ち込むことをお勧めします。また、国内外の留学や学会参加の機会があれば、逃さずにチャレンジして下さい。患者さんの診療にすぐには直接役立たないかもしれませんが、医師としての総合的な能力向上につながります。

おわりに 研修医時代の恩師から、「君がよく研修している」とほめられた時は病院が良かったと思われたい。君の研修が不十分と評価された時は、研修病院のせいではなく、君自身の努力が足りないと思われたい」と言われました。今後いろいろな病院での研修生活を送られることと思います。チャンスはどこにもあります。若さという強力な武器を持つみなさん、あなたの方の健闘を祈ります。

「心にかける」とは、共にいること、共に泣くこと、共に苦しむことであり、痛みを共有することです。心にかけることが第一の関心事であるならば、その結果としての治療は恵みとして受け取られるでしょう。治療することができない時でも心にかけることは出来ます。心にかけるとは、人間らしいあり方です。」

は「病氣」ではなく、病氣をもった「人」であるということ。それを忘れて欲しいという点です。そして決して病氣そのものだけを治療するのではなく、病氣をもった人を「心にかける」医療をしていただきたいと思います。ICU は「集中治療室」と訳されていますが、ICU の C は Cure (治療) のではなく、Care (気配り、心にかけること) のです。和訳では「病氣の治療」に重点を置いた訳になっていますが、原義は「病氣の人を集中的に心にかけることを目的とした室」のことを指しています。

それでは「心にかける」とはどういうことでしょうか。私は婦人科ががんの治療を専門にしていますが、癌の患者さんは、病気が原因の症状や治療に伴う副作用による苦痛があるだけでなく、「治療中に子供の面倒を誰に頼めばいいのか」とか「このまま良くならないで死ぬのではないか」とか「もっと早く受診していたらこんな辛い目にあわなかったのに」など様々な悩みや心配を持っています。そういう患者さんを診療する際に医者に求められるのは患者さんの苦痛・悩み・心配を十分理解した上で治療にあたるということ。早期のがんであれば患者さんも医師も完全治癒という共通の目標に向かっていきますが、再発を繰り返している患者さんは必ずしも侵襲的な治療を続けることを望んでいないということもあります。患者さんがどう

いう生き方を望んでいるかをよく聞き、どのようにすれば患者さんの希望に近づけるかを真摯に考えることが重要です。これが care すなわち「心にかけること」と考えます。最後に宗教家のヘンリー・ナウエンの言葉を引用し、はなむけの言葉に代えたいと思います。

「心にかける」とは、共にいること、共に泣くこと、共に苦しむことであり、痛みを共有することです。心にかけることが第一の関心事であるならば、その結果としての治療は恵みとして受け取られるでしょう。治療することができない時でも心にかけることは出来ます。心にかけるとは、人間らしいあり方です。」

驕らず、謙虚に、 親身に、人に易しく

厚生連長岡中央総合病院 北澤 勝
(平成二十年卒)



卒業、国家試験合格おめでとうございませう。長岡中央総合病院糖尿病センターの北澤勝です。平成二十年に新潟大学を卒業。平成二十二年に当時の第一内科に入局し、内分必・代謝内科として今年で六年目となります。病院のスタッフ、指導医、患者さんに恵まれ充実した日々を送っています。これから一緒に働く皆さんを心より歓迎します。

四月よりそれぞれ、臨床研修に励むことになると思います。日々の仕事を充実させるため、アドバイスを贈ります。浅い経験からの偉そうな話となりますが、参考になれば幸いです。

国家試験をクリアした皆さんは、『先生』となり、今後あらゆる所で煽てられます。最初はくすぐったい『先生』ですが、いつしかそれを当然と思ってしまう。『先生』と呼んでくれる他のスタッフは、皆さんが知らない専門課程をクリアし、多くの技術を持っています。それぞれの仕事での協力があって、初めて医師の仕事が成り立ちます。患者さんは多くの経験を積んできた人生の先輩です。『先生』として決して驕らず、謙虚に医師としての仕事に向かして下さい。

私が診る生活習慣病の患者さんのほとんどが六十才以上です。皆さんのご両親とほぼ同年代でしょうか。私の父も今年還暦を迎えます。想像して下さい。あなたの父親は『先生』に丁寧

入局宣言は入部宣言！？

立川総合病院 横山 侑輔
(平成二十二年卒)



六年間の学生生活、各種試験、卒試、国試という関門を乗り越え、今春から医師としての道を歩み始める皆さん、おめでとうございませう。これから初期研修を経て自らの適性を判断し、専門とする科を決めることとなります。

僭越ですが自分の事を少しだけお話しさせていただきます。自分は二年間の初期研修を新潟大学歯学総合病院で行い、いわゆるたすき掛けで長岡の立川総合病院を、地域研修で佐渡の両津病院を選択し、研修させて頂きました。初期研修を開始した頃は所属したい専門科をはっきり決めておらず、外科系コースを選択し、自分の興味のある科を回りました。最終的には研修二年目の十一月に新潟大学耳鼻咽

卒業生のみなさんへ

新潟市民病院 丸山 馨
(平成二十五年卒)



ご卒業おめでとうございます。国家試験、本当にお疲れ様でした。国家試験後の日々を思い出すと、旅行をして最後の学生生活を楽しまつとも四月からの研修生活が不安でもあり楽しみでもありました。

二年間の研修医生活を終える今、その当時思い描いていたような豊富な知識と確かな技術を持ち合わせた医師には程遠いですが、周囲の方のおかげで今後成長できる方法をいくつかつかみかけていると思います。

一つ目は、患者さんのところへ行き、訴えを傾聴し、なんらかの対処をすぐにするこ

一つ一つの縁を大切に

鶴岡市立荘内病院 飯田 倫理
(平成二十四年卒)



ご卒業おめでとうございます。医師国家試験を終え、新年度から始まる新たな生活に期待と不安を抱きながら、残りわずかの学生生活を満喫されていることと思います。学生生活はいかがだったでしょうか。おそらくあつあつという間に過ぎていってしまったのではないのでしょうか。皆さんの大半が新年度から初期研修を始めることとなると、この縁を大切にしたいと思いませんか。

指導医の先生たちや先輩研修

一緒に頑張りましょう

県立新発田病院 米山 晋太郎
(平成二十六年卒)



まだ寒空が続くものの、暖かい春に近づいていくことを桜の蕾を観ながら感じられるいい季節です。皆さま、卒業おめでとうございませう。ほんの一年前まで私も国家試験に追われながら無事卒業し、四月からの研修医生活を想像し心躍らせていました。

現在、私は新発田病院での研修がはじまり、楽しく元気な研修仲間と充実した日々を過ごしています。何かの参考になればと思います。私の研修生活の一部を記させていただきます。

新発田病院での研修の魅力の一つである救急外来について書かせてもらいます。当院での当直は基本的には研修医・内科・外科医の三人で行います。一次患者から三次患者まで、家用車で行く方から救急搬送される方、新生児から高齢者まで、様々な患者がやってきます。一部の例外を除き、研修医がファーストタッチをさせたいと考えています。そのため診断までのアプローチで一番大事な病歴聴取、身体診察は数多くの症例を経験しながら身につけることができたのです。そしてそこから上がった鑑別疾患を基に上級医にコンサルトしながら検査を組み合わせ、結果を評価し初期治療を開始していただきます。

編集後記

私は卒業してもう二十八年になります。年寄は「昔は良かった」とかいうのが普通なものでしょうが、私は昔のことでもっとああすればよかったとかいうことはあっても、あんな頃に居るのだけはゴメンです。今号の記事で昔とはいろいろ変わったんだというところはよくわかりました。しかし、人生の若い頃が大変なのはどうせいつの時代も変わらないものでしょう。卒業した皆さん、きつと、これからいろいろあることでしょう。でも、それも人生ですよ。(古泉)